

令和3年12月20日（月）
愛知県立大学 戦略企画・広報室
担当 吉田、坂井
電話 0561-76-8636
E-Mail kouhou@puc.aichi-pu.ac.jp

愛知県立大学の学生が平田オリザ氏らから 演劇を通じた「コミュニケーション」について学びます！

2022年度前期、愛知県立大学の教養教育科目「県大エッセンシャル（※）」に、劇作家、演出家で芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏を始めとする外部講師を招き、学生が演劇を通じた「コミュニケーション」について学びます。

愛知県立大学には「多文化社会とコミュニケーション」「言語コミュニケーションと多様性」といった「コミュニケーション」に関する教養教育科目があり、それぞれが、国籍、民族、言語、ジェンダー、階級などの差異に派生する諸問題を認識し、その解決に向けて思考する科目となっています。

そこで、2022年度前期の「県大エッセンシャル」では、「演劇、コミュニケーション、他者理解」をテーマに、文化差以前の問題として、「コミュニケーション」のあり方と様態そのものについて取り上げることとしました。「伝えること」と「他者理解」の困難さを根本的に理解し、コミュニケーションの本質を問い直すことで、他のコミュニケーション関連科目を補強することを目的とします。

異文化や他者への接触を「フィクションの力を借りてシミュレートする」手法を学ぶため、平田オリザ氏および同氏の劇団関係者によるワークショップを導入します。

是非、貴社にて取材していただきますようお願い申し上げます。

※県大エッセンシャルとは

愛知県立大学教養教育新カリキュラム「県大世界あいち学」のエッセンスを代表する科目。世界、日本、愛知をとりまく情勢を見すえ、時宜にかなったテーマをフレキシブルに設定し、5学部教員と外部講師による複眼的・立体的かつ課題探究的な講義を軸にし、5学部学生が討議や協働を通じてアクティブに参加する科目。

■ 講師のプロフィール

・平田オリザ氏

劇作家・演出家、芸術文化観光専門職大学学長

大学在学中に劇団「青年団」を結成、こまばアゴラ劇場を拠点に活動。1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞、2003年『その河をこえて、五月』で第2回朝日舞台芸術賞グランプリ、2019年『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞を受賞。2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。その戯曲はフランスを中心に世界各国語に翻訳・出版されている。現在、江原河畔劇場 芸術総監督、こまばアゴラ劇場芸術総監督、豊岡演劇祭フェスティバル・ディレクター、豊岡市文化政策担当参与。

2019年より豊岡市日高町に移住、2020年に劇団の新拠点となる江原河畔劇場を設立。コミュニケーションデザインの教育・研究に携わるとともに、日本各地の学校において、対話劇やワークショップを実践するなど、演劇の手法を取り入れた教育プログラムの支援・開発にも力を注ぐ。

・村井まどか氏

劇団青年団の俳優 / NPO 法人 PAVLIC に所属 / ワークショップファシリテーター / 金城学院大学非常勤講師

- (出演舞台) 2018年 青年団『日本文学盛衰史』
 2018年 ガレキの太鼓『地上10センチ』
 2017年 TATICA STAGE 2『他重人格』 など多数
- (出演映画) 2015年 『これからのこと』 マキタカズオミ監督
 2008年 『東京人間喜劇』 深田晃司監督

■ 講義計画(予定)

	日程	内容
第1回	4月11日(月)	ガイダンス(教養教育センター)
第2回	4月17日(日)午前	平田オリザ氏によるワークショップ
第3回	4月17日(日)午後	平田オリザ氏による講演会
第4回	4月25日(月)	村井まどか氏によるワークショップ
第5回	5月9日(月)	
第6回	5月16日(月)	
第7回	5月23日(月)	中間まとめ(教養教育センター)
第8回	6月6日(月)	外国語学部教員(四ッ谷亮子)講義 「”ことば”と”場”をつなぐ新たな演劇的表現の試み」
第9回	6月13日(月)	看護学部教員(山田浩雅)講義およびグループ演習 「医療におけるコミュニケーションの特徴について」
第10回	6月20日(月)	日本文化学部教員(若松伸哉)講義 「前衛演劇にみる身体表現」
第11回	6月27日(月)	情報科学部教員(ジメネス フェリックス)講義 「ロボットと人間のコミュニケーション」
第12回	7月4日(月)	教育福祉学部教員(藤原智也)講義 「アート表現と異文化理解 ～進化、宗教、グローバル化～」
第13回	7月11日(月)	グループワークと成果発表(教養教育センター)
第14回	7月18日(月)	
第15回	7月25日(月)	